

人と防災未来センター 平成 28 年度事業評価

* 評価基準（4段階評価）

[S : 大変評価できる A : 評価できる B : あまり評価できない F : 評価できない]
---	---	---

評価単位	評定	委員コメント
展示	A	<ul style="list-style-type: none"> ・50万人の来館者があることは大いに評価しうるが、この状態は数年来継続しており、単年度での評価という点ではA評価になる。 ・巡回展は参加者の数は少ないけれども、積極的に外にも展開する点では評価できる。 ・有料と無料の割合が気になる。量的な分析があっても良いのではないか。
資料収集・保存	A	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業は地味だけれどもキチンと進めている。 ・資料の収集は単に集めるだけではなく、将来を考えて毀損しないためのアーカイブの視点も重要であろう。
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ここは実践的な現地での災害への対応を通じて、若手の研究者を養成することに一つの重点があるが、この点に関しては、若手の専門家の養成と現地での調査や支援が熊本地震の災害に際して同時に行われたのは、事業の目的に適切であり、評価することが出来る。 ・付言するならば、研究のための調査をすることが支援になるかという点では問題が残る。 ・二つの評価項目を一つにしたのは前進であり、28年度のように大規模な災害のあった年は、災害調査や支援を通じて若手の専門家の育成が進むが、災害の無い年に、この評価項目をどのような観点から評価するかは議論されなかった(委員長のコメント)。
災害対策専門職員の育成	S	<ul style="list-style-type: none"> ・先方との対応は大変であろうけれど、各種の自治体からも望まれており、行政のトップへの研修という極めてユニークな事業であって、防災の問題は主たる実施の主体は行政であることを勘案すれば、極めて意義深い事業であり評価は高い。 ・評価目標が必ずしも高くはないとの懸念も残る。
交流ネットワーク	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な活動であって、前年度が特別であったというわけでもないから、従来と同じ評価で良いのではないか。 ・地域との交流の観点からは、ライトアップも含めて従来よりも高い評価も出来る。